○アンケート結果に関するまとめ

結果概要
参加のきっかけは、野生生物（イヌワシ）への関心だったが、最終的にはその保全や生態系そのものの保全について、森林・里山・地域・人間活動等様々な角度から同じビジョンのもとではないかと感じた。今後も、こういったシンポジウムを開催してほしいという意見が多く、継続して情報発信の機会を設けることが重要である。また、本アンケートでは年齢及び職業を設問として設けておらず、回答に相関があるのかといったことが読み取ることができなかったことは、反省点としたい。

１．参加について
（１）参加を決めたきっかけ

「野生生物（イヌワシ）に興味があった」が約４５％と最も関心が高く、次いで「野生生物の保護に興味があった」が約２２％となった。双方で６７％と、野生生物に関する関心の高さが参加の動機となったと考えられる。

（２）中越森林管理署のイヌワシ保全のための森林施業の取組

「知っていた」が約４８％、「知らなかった」が約４７％とほぼ同数であるが、約半数が知っていたという結果となった。参加者の関心の高さがうかがえる結果となった。

２．内容について
（１）シンポジウムの内容

「大変参考になった」及び「少し参考になった」双方で約９６％となり、ほとんどの参加者がなんらかの成果を得たという結果となった。なお、「全く参考にならなかった」は０％であった。

（２）最も興味のあった内容（又はもっと知りたい内容）

「イヌワシの生態」「森林施業」「里山について」等それぞれのカテゴリにおいて様々な意見があったが、野生生物への関心が高い参加者のなかで「イヌワシ保全と森林施業」と関連させた意見が出てきたことが、本シンポジウムの成果ではないかと考える。

３．今後の活動について
（１）今後、森林・林業行政に期待すること

多様な森林施業が最も多い回答であったが、生業としての林業への期待の声も多かった。
また、自然保護への期待の高さもうかがえる。

４．その他
（１）本シンポジウムの内容、運営等についてのご感想をご自由にお書きください。

「定期的に開催してほしい」「機会があればまた参加したい」等の意見が多かった。
また、パネルディスカッションはシナリオ性がなく、言いっぱなしでないところが良かったという意見もあった。これは、会場をも巻き込んで、意見交換をすることができた成果ではないかと考える。

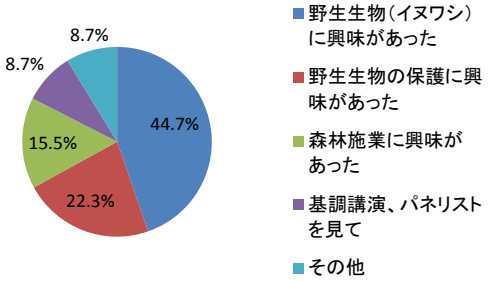
【イヌワシ保全シンポジウムアンケート結果】

最終参加者数	128 名
アンケート回収枚数	77 枚
回答率	60.2 %

1 参加について

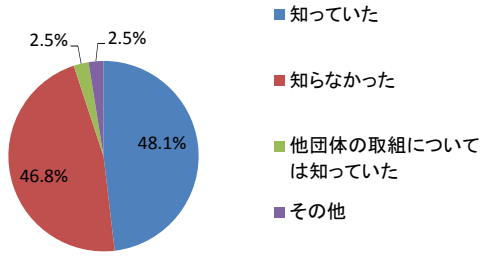
(1) 参加を決めたきっかけ　※複数回答

項目		回答数	回答割合
野生生物(イヌワシ)に興味があった		46	44.7%
野生生物の保護に興味があった		23	22.3%
森林施業に興味があった		16	15.5%
基調講演、パネリストを見て		9	8.7%
その他	・知人に催しを教えてもらった ・自然と人間のかかわり方 ・業務命令による ・業務 ・会社で参加情報があったので ・上司の命令 ・森林施業を実施している ・管理署より声をかけられて ・イヌワシ研究会メーリングリスト	9	8.7%
計		103	100.0%



(2) 中越森林管理署のイヌワシ保全のための森林施業等の取組　※複数回答

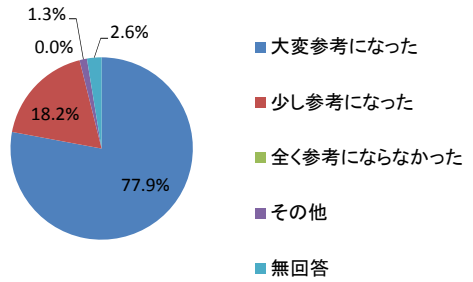
項目		回答数	回答割合
知っていた		38	48.1%
知らなかった		37	46.8%
他団体の取組については知っていた	内訳 ・イヌワシ研究会 ・新潟県イヌワシ保全研究会	2	2.5%
その他	・自然豊かな地域で事業を行っている。他の事業(本体)の保全の取組み及びイヌワシ有識者のご意見等を聞いて進めていることまでは知らなかった。 ・宇津野銀山地区について協力している	2	2.5%
計		79	100.0%



2　内容について

(1)シンポジウムの内容

項目		回答数	回答割合
大変参考になった		60	77.9%
少し参考になった		14	18.2%
全く参考にならなかった		0	0.0%
その他	・これを機会に森林(山)の見方を勉強したい。	1	1.3%
無回答		2	2.6%
計		77	100.0%



2(2)最も興味のあった内容(又はもっと知りたい内容)

イヌワシ保全と森林施業	・イヌワシの生息地保全の具体的な事例 ・イヌワシの生態のうち、餌獲り場と施業(ギャップ造り)の関係。他の保護動物と施業の関係があるものはあるのでしょうか。 ・山の整備とイヌワシの生態について ・生息地保全の手法 ・人間の生活の変化によって山が荒れイヌワシが生息出来る場所が少なくなっていることと、これをどう以前の状態にしていくかということ。 ・イヌワシだけでなく、全体の生態系を考えるべきことと、むやみやたらに木を増やすのではなく間伐が必要であること ・群状伐採とイヌワシの関係。 ・イヌワシの生態及び森林施業 ・イヌワシと人の共存(森林施業)
イヌワシの生態について	・イヌワシの生息地の広さと熊もイヌワシのえさになる場合、生態系の情報等、森林界の変化 ・中越地区のイヌワシの現状。県内の状況を知りたい。 ・イヌワシの現状 ・魚沼地域におけるイヌワシ生息の現状 ・イヌワシの映像(幼鳥、成鳥)ハンティング 営巣活動の映像も見たい。魚沼地域のイヌワシペアの状況も知りたい。 ・イヌワシの生態に興味をもった。 ・魚沼に生息するイヌワシの数さえ知らなかったのでとても参考になった。 ・イヌワシの生態がよくわかって、参考になった。 ・イヌワシを守る方法。育鳥期間は入山禁止か。規制するなどの検討 ・イヌワシはこのままだと絶滅するということ。 ・イヌワシが生息するとは、どういう意味をもつのか、具体的でわかりやすくありがたかった。 ・全国で650羽、中越森林管理署管内では何羽?近くにイヌワシがいれば最も興味がわくと思う。 ・須藤氏:久しぶりにイヌワシの生態写真を見せていただき、改めてすばらしかった。 ・イヌワシの生態、繁殖のサイクルなど。人がイヌワシに与える影響(悪い方はもちろん保護活動による影響も)
森林施業について	・イヌワシを守る林業施業が日本のこれからの森林のモデルとなる可能性を秘めていること。 ・狩場造り(群状伐採) ・①広葉樹林への施業の指針が必要です。②民有林(所有林)の経費をどこからまかなえるのか? ・間伐から主伐、再造林に舵をとっていくということなので、伐採木を適性に利用できる社会整備 ・原始的自然、人為の加わった自然(里山)各々の手法で保全していくこと。 ・地元でできる林業(民有地の利活用)が生業とできる環境の方向性の提示ができないか? ・広葉樹の施業、生産性(経済)とどのように生態系の維持を両立させるかが課題。 ・伐採後の森林管理 ・スポット的な主伐ができるようになるという施業。薪つくりで里山活性化 ・施業の仕方(狩場等の確保)
里山について	・里山の重要性・必要性 ・昔の里山のほとんどは草地芝山であったのではないか。私(65歳)が子供のころは毎日草を刈り堆肥や飼料にしていた。今、目指してる保全はどこを目標にすべきか知見が得られた。 ・里山、奥山のゾーニングと機能の方針を生かせるプランニングを持続的に運営できるものにする。 ・里山と草(茅)山との関係 ・昔からの里山の利用方法(使い方)イヌワシの餌場の必要性、地形等 ・里山の管理の仕方 ・熊の生息→カモシカを餌にすること。里山の話→昔の農村地帯が思い浮かぶ。 ・里山林の生態系維持 ・里山林の変化。 ・過去の森林の未立木地化は薪炭林としての利用ではなく、田んぼの緑肥利用にするものだったことです。 ・里山の形成と鳥や獣との関わり。
須藤氏	・須藤先生の動画には驚きました。もっと見たいです。 ・須藤さんの話をもっとゆっくりと聞きたかった。里山の重要性を教えてもらったこと。
柳川氏	・魚沼・南魚沼地域におけるイヌワシの生息(柳川氏) イヌワシの生息地を認識し、スキーヤーやスノーボーダーのルート変更などを指導できるようなツアーガイドの養成(柳川先生) ・柳川先生の問題解決のための施業等に関心がある。 ・柳川氏:これまで断片的に知識として持っていたが、それが整理、統合された内容で話してもらい、大変勉強になった。 ・新潟の農林業とイヌワシ
大住氏	・大住氏:里山について整理でき、すばらしかった。
その他	・どのお話も、基本的なことから入っていただき、よく理解できました。 ・それぞれの方に提案が示され、自分にできることは何だろうと考えることができた。 ・21世紀は一次産業の時代と考えます。この産業に従事することのインセンティブの向上を行政対策として充実させていただきたい。 ・パネルディスカッションにおいて、本テーマと取組みに対する参加者の意見について掘り下げた考えと実態を聞けたこと。 ・野生動物と共生の難しさ!個人所有の森林が省エネ+Co^2関連で熱源対策として、国全体の施策で取り組むべき。 ・温暖化防止での森林の役割と、森林整備事業での若者の雇用の促進を国策で大々的に進めて貰いたい(企業や営利団体への発注は利益主義で食い物にされる。) ・積雪地という特情が配慮された「森林特区」として特産物を道の駅など活用し生計が立てられれば ・情報公開の仕方 ・生物の多様性の考え方 ・共生のあり方

３．今後の活動について
（1）今後、森林・林業行政に期待すること

多様な森林施業	・県の環境税導入とその税を活用した森林整備 ・新潟県の広葉樹の管理の推進、どのように進めていったら良いか具体例などの提示 ・民有林の手入れに係る手続きの簡素化 ・森林は利用していかなくてはと強く感じた。狩場の確保には、皆伐して利用していくことが必要だと思う。 ・民有林の杉林対策。 ・イヌワシを守る林業施業が日本のこれからの森林のモデルとなる可能性を秘めていること。 ・抜切りの仕方に柔敏に対応してほしい。間伐をより柔軟に、目的に応じた切り方を認めてほしい。 ・①広葉樹林への施業の指針が必要です。②民有林（所有林）の経費をどこからまかなえるのか？ ・間伐から主伐、再造林に舵をとっていくということなので、伐採木を適性に利用できる社会整備 ・生物多様性と林業のつながりを行政でつくれる体制つくりを推進してほしい。 ・主伐の増加に伴い、他環境への配慮も十分考慮していただきたい。 ・森林を燃料に使わなくなって50年以上になった。その為、森林の自然に放置され動物の生態系が変わってきた。やはり森林は利用と保全のバランスが必要だと思いました。 ・森林の造林にはギャップと広葉樹を交互に帯状につくったらどうでしょうか？ ・環境だけでなく経済や地域等全体を含めてバランスよく、森林・林業を実施していただきたい。（今回拝聴させていただいた限りでは何も問題ないと感じました。） ・鎮守の森の調査・・・その土地本来の主木の植林を考える。 ・森林（立木）の価値を上げること（地球環境の改善につながる） ・森林整備
林業の発展	・林業等若者の働く場所をどうするか。針葉樹林と広葉樹林の割合、又伐採木の処理 ・21世紀は一次産業の時代と考えます。この産業に従事することのインセンティブの向上を行政対策として充実させていただきたい。 ・温暖化防止での森林の役割と、森林整備事業での若者の雇用の促進を国策で大々的に進めて貰いたい（企業や営利団体への発注は利益主義で食い物にされる。） ・地元でできる林業（民有地の利活用）が生業とできる環境の方向性の提示ができないか？ ・若者がもっと森林林業に関心を持ち、従事すれば良いと思う。昨年、杉林の枝打ちを体験して、その杉林が見通しが良くなりとても美しくなった事に感動しました。身近な里山の杉林を見ると手入れがされておらず、とても残念です!! ・国有林の間伐払い下げ（きのこ生産）→生物多様性につながる餌場をつくる。
自然保護	・自然保護 ・イヌワシの保全に期待する。 ・野生生物との共存をもっと ・野生動物と共生の難しさ！個人所有の森林が省エネ＋Co^2関連で熱源対策として、国全体の施策で取り組むべき。 ・原初的自然、人為の加わった自然（里山）各々を各々の手法で保全していくこと。 ・環境保護を中心とした森林施業 ・広葉樹林を増やしていただきたい。 ・生態系保全への予算確保 ・鳥やその他の動物、植物も絶滅危惧種が増えてきている。これらの復元の方向性を考える施業を期待したい。 ・分収林を一筆所有しているが、個人では管理ができないのが実態。たまに行ってみても荒れ放題。このまま放置するなら植林しないほうが良かった。今後の管理はとうしたら良いのだろう。 ・イヌワシ保全の取組みをもう少し広めていく必要がある。 ・国（林野庁）はこれまで以上に生物多様性の保全に積極的にイヌワシの保全に協力する。 ・希少動植物を保護した上で地域の活動を停滞させないこと
その他	・シカ対策を考えること ・署の活動全般をもっとPRしてほしい。 ・森林の保護は大切だと思いますが、あくまで人間の生活、活動と共生していける方向で考えていただきたい。 ・広く認識が行き渡る時代が来るように。 ・官民の両方の立場から日本の国土について考えるため、話せる窓口は大切だと思う。（中越署の皆様はたいへん良く耳をかたむけてくれます） ・何もない！ ・イヌワシゾーンを国有化にし、一括管理をすることが望ましいと考える。全体的に保全することのスキームが必要!!担い手の確保と生活賃金の収入の確証成立が必要。つまり、売れるものにすることが第一。 ・トキのように管理が必要と思われるので管理方法の研究が必要なのではないかと思う。魚沼の里山に全て桜を植えたら観光地になる？ ・南魚沼は周囲を森林に囲まれている。子供たちも緑がいっぱいで自然豊かな町と答えている。もう一歩踏み込んで、同じ緑でもその中で営まれる生命の関わり合いやつながりをわかるようにすることが森や自然を大切に思う環境教育へとつながると思う。自信をもってふるさとの自然を自慢できる核を子供の中に育てたい。 ・国・県・市が互いに生物多様性に配慮した施策を進めていく意識を末端の職員まで持って仕事をするようになってほしいです。 ・定期的なシンポジウムを期待する。 ・治山事業の推進 ・県・民との連携。オオタカの本間隆平先生の意見なども入れたら？

4. その他

(1)　本シンポジウムの内容、運営等についての感想をご自由にお書きください。

内容	・シナリオ性がなくて良かったと思います。 ・イヌワシの保全と森林について森の役割等どの程度必要か生態系とCO^2等々の環境つくり生物多様性を考えて復旧のしすぎに注意 ・伐採従事者の意見も聞きたい。 ・基調講演が良かったのでまた機会があれば参加したい。 ・次回も期待します。 ・大変参考になりました。 ・イヌワシから見たことがすばらしかった。 ・こういった発表をこれからも継続してもらいたい。 ・専門家の意見には説得力がある。知ると知らないでは大変な違いで、知らないうちにちょっとした間違いをしている事を知らされた。 ・構成等すばらしいと思う。須藤先生の映像がわかりやすく、イヌワシを間近に見ることがない私たちにも目で見れることが良かった。もっと、イヌワシそのものの映像を見てイヌワシの生態も勉強したかった。 ・人選が良いと思った。イヌワシの会の副会長が映像にかかわる職業のようだが、この場面では避けるべきだった。残念だった。カメラマンの一人でどうしても良い映像を求めすぎているようであった。要反省 ・良かった。ディスカッションに欠けた「パネル言いっぱなし」よりは、メリハリやルールのある内容のある話でした。 ・現在森林インストラクターとして活動しいろいろな会に出席、参加しているが久しぶりに内容が充実し講演が良くわかり感激しました。 ・数年前に見た「ヒヨリの森」にもあったイヌワシが開発の邪魔で殺してしまう業者が実在するのが残念だった。今回のシンポジウムでもイヌワシの美しさを詳しく知ることができてよかった。 ・大変良い企画でした。毎年、開催していただきたいと思う。 ・このようなシンポジウムを定期的に開催してほしい。 ・基調講演の演題が多すぎるのでは？中越署の発表があっても良いのでは？ ・継続して開くと内容が深まっていくのではないかと思う。 ・大変貴重な機会をありがとうございました。勉強になりました。さまざま考えがある中でバランスの良い状態を維持していく大切さを感じました。 ・全ての点でよかった。こういう機会をもっと作り、一般の人の参加を多くしてもらいたい。 ・須藤さんの話がわかりやすくてとても良かった。
運営	・参加者数の都合上、難しいと思われるが、講演の資料を要約版で配布していただきたい。 ・スムーズな進行で良かった。室内が暖かすぎた。 ・レーザーポインターの使用見直し ・各講師の講演内容レジュメがあれば、もう少しわかりやすかった。また3本の講演ではなく、2本位で1本1時間くらいの講演の方がよかった。
会場	・会場が暑苦しかった。
その他	・65歳を超えた元気な皆さんを見て「特区」推進員として呼びかけた効果などあったら今後の方向性の指針になればより効果あったか？ ・人工林の森林整備補助で木材を販売しても採算がとれない状況ですが、イヌワシ補助は今後成立するのか。一部サンプル的に仕事になる位なら事業的に困難。せめて税金を支払える運営を本気で考えないと絵空事。 ・魚沼市内でもやってもらいたい。 ・「日本の暮らし」木を利用することが色んな面に影響することをアピールが重要!!　他種との連携したPR活動することが効果大では。 ・イヌワシ保全と林野行政全体の中での管理の位置づけをして対応せざるを得ないのではないか。獲物（動物）の育成も必要 ・広報が少ない。200名の参加で良いか？もっと広く広報が必要とおもわれる。